



# A NEWS BULLETIN

国際病理アカデミー日本支部

2024 Number 4

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

## OFFICERS

### PRESIDENT

Y. Oda, M.D. ('24)  
Kyushu University

### PAST PRESIDENT

T. Yoshino, M.D. ('24)  
Okayama University

### VICE PRESIDENT

T. Kiyokawa, M.D. ('24)  
Jikei University

### PRESIDENT-ELECT

T. Tsuzuki, M.D. ('24)  
Aichi Medical University

### SECRETARY-TREASURER

K. Harada, M.D. ('24)  
Kanazawa University

### COUNCILLORS

H. Minato, M.D. ('24)  
Ishikawa Prefectural Central Hospital  
H. Yanai, M.D. ('24)  
Okayama University  
S. Aishima, M.D. ('25)  
Kyushu University  
S. Minamiguchi, M.D. ('25)  
Fujita Health University  
T. Kondo, M.D. ('26)  
University of Yamanashi  
R. Watanabe, M.D. ('26)  
St. Marianna University  
T. Ushiku, M.D. ('26)  
University of Tokyo

### COMMITTEE CHAIRS

#### Public Relations Committee

M. Hisaoka, M.D. ('24)  
University of Occupational and  
Environmental Health

#### Education Committee

H. Haga, M.D. ('24)  
Kyoto University

#### Young Investigator Award

#### Nomination Committee

T. Nagao, M.D. ('24)  
Tokyo Medical University

#### Awards Nomination Committee

O. Matsubara, M.D. ('24)  
Hiratsuka Kyosai Hospital

#### Finance Committee

R. Katoh, M.D. ('24)  
Ito Hospital

#### Nomination Committee

T. Yoshino, M.D. ('24)  
Okayama University

#### International Conjoint Meeting Committee

T. Moriya, M.D. ('24)  
Kawasaki Medical University

#### US Friendship Committee

M. Mino-Kenudson, M.D. ('24)  
Massachusetts General Hospital,  
Boston

## XXXV IAP2024 in Cancunに参加して

聖マリアンナ医科大学 病理学 渡邊麗子



2024年10月27日(日)から31日(木)までの5日間に  
渡り、第35回 International Academy of Pathology Congress  
がメキシコ、カンクンで開催されました。カンクンはカリ  
ブ海に面したユカタン半島に位置する都市ですが、学会が  
開催されたのはダウンタウンから離れたビーチ沿いの、長

く伸びるソナオテラ地区、高級ホ  
テルやナイトクラブ、ショップな  
どが立ち並ぶエリアです。ビーチ  
は通年泳げるといって有名  
で、世界中からレジャー客が集ま  
ります。私達が出かけた10月末  
も、ビーチには多数の海水浴客が  
楽しそうに思い思いの時間を過  
していました。そんなところで、  
黒い鞆や、学会ポスターを抱えた  
人にすれ違ふと、知らない人同士  
でも、おそらくお互い何やらの親  
近感を感じたのではないでしょ  
うか。筆者もいそいそと学会場へ足  
を運びました。

学会会場は、一つの建物ですべ  
てのプログラムが行われる、比較  
的コンパクトなしつらえでした。  
とくに受付エリアは、シンプルな  
案内板と参加ネームの紙  
を印刷するプリンター、  
ウエルカム用デコレー  
ション、とスッキリとし  
たたたずまいで、プログ  
ラム・日程表はスマート  
フォンのアプリをダウン  
ロードすることで閲覧す  
るシステムになっていま  
した。会場から会場への  
移動は楽でしたが、ア  
プリの便利な機能が使え  
こなせないと、なかなか意



宿泊先のホテルから眺めたCancunのビーチ



学会会場エントランス

中のセッションにたどり着けないジレンマがありました。

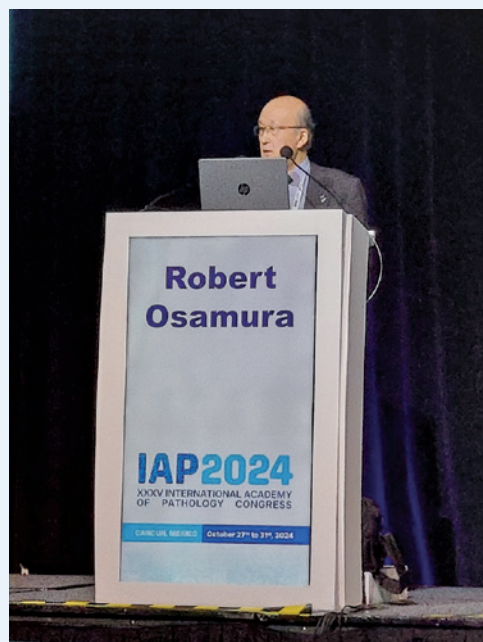
開会式は初日の夕方、IAP会長のProf. Martin Haleや今回の学会主催者であるDr. Sergio Sanchez Sosaの挨拶に続き同会場であトラクションが始まりました。メキシコらしいコスチュームをまとい、楽器を弾きながら歌い、踊るグループの出場となり、会場が一気に盛り上がり、そのままポスター&展示会場へ移動し、テキーラやマルガリータとフィンガーフード、デザートとともに執り行われたwelcome receptionを楽しみました。日本IAPメンバーもブース近くに集い、長い旅路の末に到着したお互いの無事を喜びつつ、大会期間中の目的達成にむけて思い思いの誓いを立てました。

前半の学会ハイライトはやはり、第2日目の長村義之先生によるSpecial sessionと思います(My interest, passion and challenges never end in pathology: Message for IAP in the forthcoming years)。長らく重要な役職を務められた日々、かつご自身の長きにわたる研究生活、病理医としての半生を振り返りつつ、新たに抱いたデジタル病理学への興味、熱意と展望にも言及されたスピーチは、60分間という時間を忘れさせるほど中身の濃い、かつ長村先生のハートが伝わる素晴らしいものでした。スピーチ終了後、引き続き行われた長村先生の受賞セレモニーが終わるまで、会場は惜しめない拍手に包まれました。

我々日本人にとって次なるハイライトは、中日29日(火)午後に行われた、IAP日本支部メンバーが座長ならびにスピーカーを務めたShort Course



開会式でのアトラクション  
(Cultural Performance)



長村先生によるSpecial session

## 目 次

|   |            |    |
|---|------------|----|
| 1. XXXV IAP2024 in Cancunに参加して .....                  | 渡邊麗子       | 1  |
| 2. 欧州病理学会 (ECP) 2024 in フィレンツェ参加報告 .....              | 原田憲一, 都築豊徳 | 4  |
| 3. 2024年理事候補について .....                                | 吉野 正, 加藤良平 | 7  |
| 4. 2024年IAP日本支部・病理診断学術奨励賞報告 .....                     | 長尾俊孝       | 7  |
| 5. 第70回日本病理学会秋期特別総会International Poster Session ..... | 近藤哲夫       | 8  |
| 6. 2024年臨時理事会・第3回理事会 .....                            | 事務局        | 9  |
| 7. 第64回総会 .....                                       | 事務局        | 10 |
| 8. 事務局よりお知らせ .....                                    | 事務局        | 11 |
| 9. 大塚茉莉さん、長い間JDIAPのために有難うございました .....                 | 松原 修       | 11 |
| 10. Upcoming meetings .....                           | 柳井広之       | 12 |
| 11. JDIAP賛助会員 .....                                   |            | 12 |
| 12. 編集後記 .....  | 久岡正典       | 12 |



IAP2026の案内をする小田先生（右）。  
座長は清川先生（左）

(Implication of Immunohistochemistry and Molecular Testing in Surgical Pathology) でしょう。座長の小田義直先生、清川貴子先生の挨拶から始まり、各スピーカーが諸臓器の腫瘍において鍵となる免疫染色や分子病理の特徴を、それぞれの切り口でお話しされました。トップバッターである南口早智子先生の胎盤病理、続く長尾俊孝先生の唾液腺腫瘍、松原修先生の肺腫瘍、筆者は脳腫瘍、そして最後は相島先生の混合肝癌にまつわるお話、しかし印象的なスライドとともにスマートにトリを務められたのは、次回IAP2026開催国の紹介を行った小田先生のスピーチだったと思います。食・文化の魅力をちりばめた魅力的な動画とともに、福岡までのアクセスを分かりやすく説明されたところでは、会場内の参加者全員が集中して聞いておられました。セッションがクローズされた後も残っておられた参加者に近づき、プロモーション用に作成した筆者の名刺を配ると、みな嬉しそうに「See you in Fukuoka!」と受け取ってくれました。

このShort Course以外にも日本IAP会員が座長を務め、あるいは発表者として参加したセッション、スライドカンファレンス、ポスター発表がいくつもありました。紙面の都合上、ご発表のひとつひとつをご紹介できないのが残念ですが、筆者が可能な限り足を運んだ会場で、国内同様、国際学会でもスマートにお話しされる日本人病理医の姿は、なおさら自身の参考と励みになりました。

学会プログラムを簡単にご紹介すると、臓器別に組まれたshort course, シンポジウム, デジタル病理とAIにスポットを当てた有料セッション, プレナリーとしてメイン大会場で行われたメモリアルスピーチ, ポスター発表などで構成されていました。また、初日には若手病理医を対象としたプレコンgressコースやコンパニオンミーティングなどもプログラムに組み込まれていました。プレナ



ポスター会場。会期中、前半と後半で張替えが行われた。

リークチャーはいずれも感銘を受ける内容でしたが、加えて会期後半の、病理解剖を含む病理医育成・教育に関するセッションの企画も興味深く、それぞれのお国事情がうかがわれつつも、新しい時代を見据えての、演者それぞれの考えを興味深く聴くことができました。

お楽しみ企画としては2日目のワインセミナー（有料）、4日目夜はLatin America Quartetの演奏を楽しむCultural Event（無料）と引き続き行われたNetworking Event（有料）、がありました。Networking Eventはとくに印象深く、ちょうどメキシコの「死者の日」（死者を偲び、感謝し、生きる喜びを分かち合う伝統文化・風習）に近いことにちなみ、ドリンク、フードのほか、骸骨メイクのサービスがあり、会場には大きな骸骨の絵がしつらえられていました。思い思いのメイクを施した参加者が、最後にはみんなと踊りまくるという約2時間のイベントでしたが、始終エネルギッシュな雰囲気、これもお国柄のひとつ、と（おそらく日本の学会ではありえない）歓待スタイルに圧倒されました。

また「死者の日」にまつわる企画として、会場



閉会式前日夜に行われたNetworking Event  
(立食パーティ)

内にお亡くなりになったIAP関係者の写真を飾った祭壇も設置されていました。

日本IAPブースでは、配布用に準備したバッジとキャンディーは好評だったようで、筆者が連日、足を運ぶと、いつも誰かが訪れておりました。ある参加者は、ブース前で流しているビデオを指さし、私に「この病理医知っている！」と小田先生のことを紹介してくれました。「次のIAPの学会長なんですよ」と伝えると「必ず行くね！」と答えてくれた、そんな小田先生ファンとの出会いもブースで実現しました。

筆者はこれまで、USCAP、ECPには参加したことがありましたが、IAP国際学会は初めての参加でした。その昔、諸先輩から話を聞いたNiceや名古屋で開催されたIAP国際学会と、その比較は想像でしかできませんが、おそらくはペーパーレス化や、スライドセミナーで用いる標本のデジ



JDIAPブースにて

タル化、など、ここ数年で発展・普及したデジタル技術の恩恵を享受し進化したことで、会場の風景も変わってきたのでは、と思われま。一方で、熱意ある演者の生の英語を、同じ空間で聴きながら話の内容に集中する時間は、やはりオンサイトでの醍醐味であり、これは今も昔も変わらないと思いました。得にスライドセミナーなど、小規模会場で熱気ある中、聴講する空気は、日本で外国の先生をお招きする招請講演の聴講とはまた違った手応えを実感できます。筆者自身、この充実感若いころ感銘を受けた、国際学会のそれと変わらない感覚でした。非日常の国外での勉強もよい経験ですが、ぜひ日本IAP会員の方々には、2026年、IAP国際会議が日本国内で開催される恩恵を享受すべく、ぜひ奮ってご参加いただき、一つでも心に残る、心ときめく経験を増やしていただければ、と強く思った次第です。



閉会式で次期開催地を紹介する小田先生

## 欧州病理学会 (ECP) 2024 in フィレンツェ参加報告

金沢大学医薬保健研究域医学系人体病理学  
原田憲一

IAP Congress 2026 in Fukuokaの宣伝も兼ねて、イタリアのフィレンツェで開催されました第36回European Congress of Pathology (ECP, 9月7～11日)に参加いたしましたので、皆様にご報告させていただきます。JDIAPからは長村先生、都築先生も参加されました。今回のECP Presidentは、Peter Schirmacher先生 (Germany, President of the European Society of Pathology [ESP]) と Gabriella Nesi先生 (Italy, Chair of the

Local Organizing Committee of ECP 2024) で、テーマは少々堅苦しい内容でしたが“Multidimensional Pathology -Cornerstone of modern diagnostics”と、真摯さが伝わってくるタイトルでした。会場は欧州らしく16世紀に作られた城壁と堀が保存されている歴史的建造物 バッソ要塞 (Fortezza Da Basso) 内にあり、広大な敷地の平屋建てコンベンションセンターで、会場数9会場で開催されていました。学会前日にOpening Ceremonyが開催され、Schirmacher先生およびNesi先生のご挨拶の後、ESPおよびフィレンツェの紹介と5500名の参加登録であったこと、また演題登録数2327演題で、2023年の1604題から大きく増加し、今回の採択率は88%との報告がありました。挨拶で気付いたこととして、“Research”, “Education”, “Training”, “Innovation”の単語が頻用されてい

ることと、従来の我々の分野では馴染みの薄かった“Bioinformatician”の参入が述べられていました。最後に、スポンサーへの謝辞をご丁寧にされていました。プログラムの内容は、Keynote lectureとしてManuel Salto-Tellez先生(UK)“Integrated Diagnostics and Modern Pathology”, Anna Sapino先生(Italy)“Diagnosis and experimental biology of cancer of unknown primary”, Günter Klöppel先生(Germany)“Subtyping of pancreatic neuroendocrine neoplasms”, Abbas Agaimy先生(Germany)“Phenotypes versus Genotype: What matters most?”と、名だたる先生方による興味津々なご講演でした。各臓器のセッションも欧州の著名人がご講演されており、日頃 欧文著書の名前でしか存じ上げない先生方を直接拝見する好機でした。さて、当初の目的であるIAP Congress 2026 in Fukuokaの宣伝ですが、都築先生の人脈を活かしたお力添えで、無料のブース(机)がレジストレーション横のベストな場所に

ご用意されていました。ポスターの貼付、ピンバッチ、フライヤーの準備を行い、多くの参加者に足を止めていただき、ピンバッチはあっという間に捌けてしまいました。その後、都築先生、長村先生に補充して頂きましたが、日本から総動員で持参したPR用品はすべて無くなるという盛況ぶりでした。資金集めに最も重要なスポンサーに関してですが、今回のPremium Sponsorsとして、AstraZeneca, Daiichi-Sankyo (第一三共), Johnson & Johnson, Roche, Major Sponsorsとして、3D HISTECH, Agilent Technologies, Amgen, Illumina, MSD, Thermo Fisher Scientific, Main SponsorsとしてAstellas, GSK, Vitro Bioが紹介されており、日頃から馴染みの深い企業が協賛されていました。企業ブースは130社程度あり、本邦からもサクラファインテック、富士フイルム、浜松ホトニクス、EIZOが出展されていました。IAP Congress 2026 in Fukuokaでの協賛を依頼すべく、挨拶回りもしましたが、馴染みのない企業さんのほとんどはデジタルパソロジーやAI関連の企業さんで、日本への進出も考えられている企業もありました。今回は学会の前半しか参加出来ませんでした。大変実のある学会参加でした。

愛知医科大学病理診断学講座 都築豊徳

日本病理学会国際交流事業とIAP Congress 2026 in Fukuokaの宣伝も兼ねて、イタリアのフィレンツェで開催されました第36回欧州病理学会(European Congress of Pathology: ECP 2024, 9月7～11日)に参加致しましたので、その報



会場正面



JDIAPブース



会場入り口  
(バツ要塞 (Fortezza Da Basso))



メイン会場（休息时间）

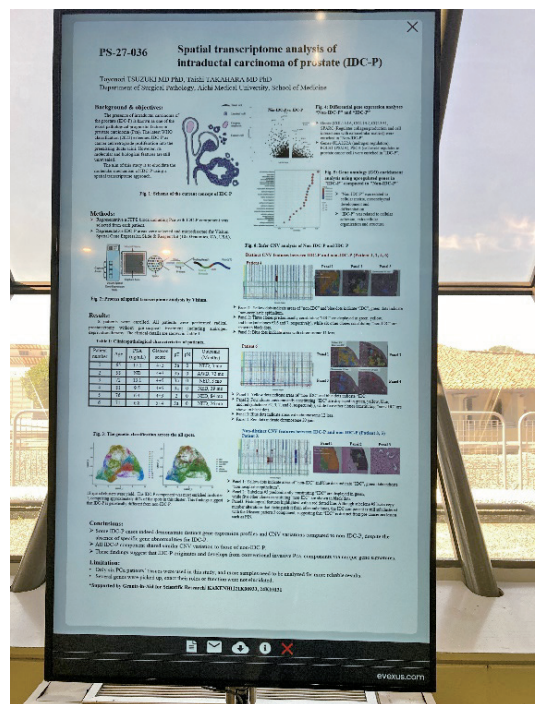
告をさせていただきます。学会の開催内容は既に原田先生が述べられておられますので、それ以外の点を報告させていただきます。

欧州の諸学会と同様欧州病理学会（European Society of Pathology: ESP, ECPとの区別が分りにくいのですが、ESPは学会事務局、ECPは開催された学会と考えてください）は米国との対抗心が強く、ECPをUnited States Canadian Academy Pathology (USCAP) に引けの取らない学会としたいとする考えがあります。今回のECPの規模の発表の際には、USCAPをしのぐ規模だと強調していましたので、ある程度目標は達成したのかもしれません。基本的に発表形式はシンポジウムや教育講演などの講演型の発表が主体で、USCAPの学会発表が主体とはやや異なります。参加者の多くも情報収集の場としてECPを考えています。欧州のみならず北米からも多くの演者を招聘しており、網羅的な知識を得るには良い内容であったと思います。英語が母国語でないこともあり、発表時のスピードは米国よりは遅めであると思います。海外の情報に触れてみたい、慣れてみたいと思われる先生方、特に若手の先生方にはなじみやすい学会であると思います。

学術的な内容と少し離れると、無料で昼食が常に提供されますので食事には困りません(しかも、レベルは悪くない)。ランチョンセミナーも相当数ありますので、ホスピタリティは充実しています。学会初日には無料の懇親会もあります。有料ですが、学会開催中にクラシックコンサートやfarewell partyもあります(値段は比較的安価で、非常に良心的な内容です。来年はウィーン開催なのでコンサートはウィーンフィルかと次回開催責任者に尋ねたところ、予算が全く合わないのではの超一流オーケストラを招聘するとのことでした)。



ポスター会場



電子ポスターの一例

口演については日本とほとんど変わりませんでした。ポスターに関しては日本やUSCAPとは少し異なっているので報告させていただきます。実物を掲示する以外に電子ポスターの掲示もあります。気に入ったポスターがあると、自分のメールアドレスを登録するとそのポスターそのものが送られてきます。後からじっくりと内容を検討したい発表などでは非常に有益な方法だと思います。但し、それなりの予算はかかっているのです、日本で同様な試みができるのかは未知数です。

来年はウィーンでECPが開催されます。ウィーンはよい観光地でもあり、学会以外にも楽しみが多数あります。学会会期中もしくはその前後でウィーン医科大学病理部門見学ツアーも予定しております。ぜひ多くの先生方が海外の空気に触れる機会を持って頂きたいと思います。

## 2024年理事候補について

理事指名委員会 委員長 吉野 正  
副委員長 加藤良平

今年の理事候補として、以下の方々が選ばれました。大橋瑠子先生(新潟大学), 孝橋賢一先生(大阪公立大学)(順不同)。任期は2025年から3年間で、今年度の理事候補投票率は46.5%で、ここ数年では最も高いものになりました。みなさまのご協力大変ありがとうございました。

## 2024年IAP日本支部・ 病理診断学術奨励賞報告

病理診断学術奨励賞選考委員会委員長  
長尾俊孝

IAP日本支部・病理診断学術奨励賞は、当該前年中に優れた診断病理分野の英文論文を発表した若手病理医に贈られる大変栄誉ある賞です。本年は応募が3名と例年に比べて少数でしたが、いずれの論文もハイレベルであり、7名からなる選考委員会による厳正な審査の結果、応募者全員(下記、50音順)が受賞されました。表彰式は、2024年11月9日に東京医科大学病院臨床講堂で開催された病理学教育セミナーの会期中に執り行われました。この度のご受賞、誠にありがとうございます。また、選考委員の先生方におかれましては、ご尽力に感謝申し上げます。

氏名：岩村 隆二

所属：産業医科大学 第1病理学

論文：*PDGFRB* and *NOTCH3* Mutations are Detectable in a Wider Range of Pericytic Tumors, Including Myopericytomas, Angioleiomyomas, Glomus Tumors, and Their Combined Tumors. *Modern Pathology* 2023; 36: 100070.

受賞のことば：この度は2024年IAP日本支部病理診断学術奨励賞という栄誉ある賞を賜りまして誠に光栄に思います。本研究では血管周皮細胞性腫瘍の遺伝子変異を調査し、地道に取り組んだ甲斐あって新たな知見を得ることができました。研究の基礎からご指導いただきました久岡正典先生、松山篤二先生、その他研究にご協力いただきました先生方に深く御礼申し上げます。今後も個々の症例の丁寧な診断を心掛け、病理学の発展に繋がる有益な研究成果を上げら

れるよう精一杯尽力してまいります。

氏名：近藤 篤史

所属：東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・  
病理診断学分野

論文：Loss of viral genome with altered immune microenvironment during tumour progression of Epstein-Barr virus-associated gastric carcinoma. *Journal of Pathology* 2023; 260: 124-136.

受賞の言葉：この度は、このような名誉ある賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。本研究成果は、大学院時代より続けてきたEBV胃癌研究の集大成であり、特にご指導いただきました牛久綾先生、牛久哲男先生にお世話になり、この場を借りて深く御礼申し上げます。診療業務中の気づきから繋がった研究成果であり、今後も病理形態学的な視点を大切にして癌研究に取り組んで参ります。

氏名：玉城 智子

所属：琉球大学病院 病理診断科

論文：A Comprehensive Study of the Immunophenotype and its Clinicopathologic Significance in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. *Modern Pathology* 2023; 36: 100169.

受賞の言葉：この度は歴史と伝統のある賞を頂戴し、大変光栄であると同時に、歴代の受賞者の先生方のお名前を拝見すると身の引き締まる思いです。受賞論文は学位研究として取り組んだ内容であり、ご指導下さった琉球大学腫瘍病理学講座 和田直樹教授、ご指導ならびに本賞にご推薦下さった名古屋大学臓器病態診断学 加留部謙之輔教授に心より感謝申し上げます。本賞を励みとし、今後も病理診断・研究・教育に一層邁進して参ります。



受賞者と関係役員。右から清川副会長、岩村先生、近藤先生、玉城先生、長尾選考委員長。

## 第70回日本病理学会秋期特別総会 International Poster Session

広報委員会 近藤哲夫

令和6年11月7日(木)、日本教育会館(東京)において日本病理学会秋期特別総会との共催による国際ポスターセッションが開催されました。IAP日本支部招待者8名(下記プログラムの\*印)の演題を含む計20演題が集まり、活発な討論がなされました。ここ数年は毎年演題数が増えており、国際化がすすんでいることを実感しています。セッション後には大橋健一大会長にご企画いただいた国際交流懇親会も開催されました。セッションのプログラムは、以下の通りです。

セッション1：座長 原田憲一

金沢大学医薬保健研究域医学系人  
体病理学

- IPS-01. The Effect of Combination Single Bulb Garlic Extract and Simvastatin on Hepatic Steatosis in Hyperlipidemia Model Rats.  
Hisyam Hartaman Putra, Faculty of Medicine, Universitas Islam Indonesia, Yogyakarta, Indonesia
- IPS-02. Effect of SNEDDS Administration of Watermelon Seed and Moringa Leaf Extracts on HDL Levels in Hypercholesterolemic Rats.  
Hisyam Hartaman Putra, Faculty of Medicine, Universitas Islam Indonesia, Yogyakarta, Indonesia
- IPS-03. Effect of Single-Bulb garlic Extract (*Allium sativum*) and Simvastatin on Hepatic MDA Levels in HFD-Induced rats.  
Sri Wahyuni Evi Nafisyah, Faculty of Medicine, Universitas Islam Indonesia, Yogyakarta, Indonesia
- IPS-04. Warthin-like Variant of Mucoepidermoid Carcinoma of the Parotid Gland: A Case Report.  
Krystal April Joy Osano Curso, Department of Laboratories, Philippine General Hospital, University of the Philippines Manila
- IPS-05. 演題取下
- IPS-06. Preoperative neutrophil-to-lymphocyte ratio reflects the immunologic portrait

and molecular subtype in pancreatic cancer.

Dakeun Lee, Department of Pathology, Ajou University School of Medicine, Suwon, Republic of Korea

- IPS-07. Value of CD138 in diagnosis of chronic endometritis and predicting embryo transfer outcome in recurrent IVF failure women.

Le Thi Yen\*, Pathology and Cytology Department, Tam Anh General Hospital, Ha Noi, Viet Nam

セッション2：座長 羽賀博典

京都大学医学部附属病院病理診断科

- IPS-08. Global survey on pathologists' adoption of virtual conferences and whole slide imaging.  
Andrey Bychkov, Dept. Pathol., Kameda Med. Ctr., Kamogawa, Chiba, Japan
- IPS-09. Panobinostat Induced Transcriptomic Dysregulation and Prognostic Biomarker Identification in MM1.S Multiple Myeloma Cell Line.  
Muhammad Farid Johan, Department of Haematology, School of Medical Sciences, Universiti Sains Malaysia, Kubang Kerian, Malaysia
- IPS-10. Hematological changes, Hepatic Pathology and molecular detection of Leucocytozoon caulleryi in southern Thailand.  
Nijjareeya Sirisriro, Faculty of Veterinary Sciences, Rajamangala University of Technology Srivijaya, Thailand
- IPS-11. Primary Meningeal Histiocytic Sarcoma: An Autopsy Case Report.  
Pornphan Sae-Sim, Faculty of Medicine Ramathibodi Hospital, Mahidol University, Bangkok, Thailand
- IPS-12. Expression of SSTR-2 & Her-2/Neu in meningioma & its correlation with clinico-pathological parameters.  
Sudeep Khera, All India Institute of Medical Sciences, Jodhpur, India
- IPS-13. UK Cervical Screening Programme – Audit on Cervical LLETZ Specimens.  
Adrian Gerard Woon, St Peter's Hospital, Chertsey, UK



セッション3：座長 都築豊徳  
愛知医科大学医学部病理診断学講座

- IPS-14. Merkel Cell Carcinoma in Taiwan: the Prognostic Significance of Merkel Cell Polyoma Virus.  
Shih-Sung Chuang, Chi Mei Medical Center, Tainan, Taiwan
- IPS-15. Deep Learning for Papillary Thyroid Microcarcinoma Identification.  
Yu-Hsiu Chen\*, Department of Pathology, Linkou Chang Gung Memorial Hospital Linkou, Taiwan
- IPS-16. CXCL 9 as a Reliable Biomarker for Discriminating Anti-IFN- $\gamma$ -Autoantibody-Associated Lymphadenopathy that Mimics Lymphoma.  
Chang-Tsu Yuan\*, Graduate Institute of Clinical Medicine, National Taiwan University, Taipei, Taiwan.
- IPS-17. Fibrin-associated Large B-cell Lymphoma Arising in a Splenic Cyst: A Rare Case Report.  
Tanintorn Pootrakul\*, Department of Pathology, Faculty of Medicine Ramathibodi Hospital, Mahidol University, Thailand
- IPS-18. The Relationship Between C-Jun Expression And Clinicopathological Features in Colorectal Cancer: Implications for TNM Staging (pT) and Perineural Invasion.  
Amelia Fossetta Manatar\*, Department of Anatomical Pathology, Faculty of Medicine, Universitas Indonesia/Dr. Cipto Mangunkusumo Hospital, Jakarta, Indonesia
- IPS-19. Digital Image Analysis of Diffuse Large B-Cell Lymphoma Morphology and Its Relation to c-Myc Expression.  
Faezahtul Arbaeyah Hussain\*, Department of Pathology, School of Medical Sciences, Universiti Sains Malaysia Health Campus, 16150 Kubang Kerian, Kelantan, Malaysia.
- IPS-20. Clinicopathologic and genomic characteristics of biliary tract carcinomas with *TERT* promoter mutations among East Asian populations.  
Inwoo Hwang\*, Department of

Pathology and Translational Genomics, Samsung Medical Center, Sungkyunkwan University School of Medicine, Seoul, Korea

- IPS-21. IDH Mutation Status in Glial Tumors: A Retrospective Study from Two Tertiary Hospitals in Metro Manila, Philippines. Margarita Rae Novales Rosario\*, St. Luke's Medical Center - Quezon City, Philippines



International Poster Session 3の演者と座長

## 2024年臨時理事会・ 第3回理事会

### 臨時理事会

日時：2024年8月5日（月）  
18時00分～18時38分

場所：Web会議

出席者：相島，牛久，長村，小田，加藤，清川，  
近藤，都築，長尾，羽賀，原田，久岡，  
松原，湊，南口，柳井，吉野，渡邊，玉  
野（金沢事務局）

欠席者：森谷，大塚（東京事務局）（敬称略）

### 確認と審議事項

- 2024年理事選挙候補者について…吉野理事指名委員会委員長より，2024年理事選挙候補者4名が報告され，承認された。
- 会則に関する事…吉野理事指名委員会委員長より，2024年理事選挙に際し，IAP日本支部理事選出に関する細則の変更が提案され，承認された。

### 第3回理事会

日時：2024年11月7日（木）  
12時10分～13時00分  
場所：日本教育会館 9F  
リンケージ・サロン  
出席者：相島，牛久，長村，小田，加藤，清川，  
近藤，都築，羽賀，原田，松原，湊，南  
口，柳井，大塚（東京事務局），玉野（金  
沢事務局）  
欠席者：長尾，久岡，森谷，吉野，渡邊（敬称略）

#### 確認と審議事項

1. 次年度の理事，役員の改選，理事・役員案  
…孝橋賢一先生，大橋瑠子先生が新理事とし  
て承認された。また，2025年理事・役員案（会  
長，前会長，副会長，次期会長，常任幹事，理  
事）が承認された。
2. 会員に関する事…名誉会員推挙者11名なら  
びにシニア会員申請者1名が承認された。
3. 第64回総会について…10月21日（月）12：  
00～10月28日（月）17：00の期間，HP上で総  
会出欠回答および委任状の受付をした。総会  
出欠回答者276名であった。
4. 2025年事業計画…承認された。
  - 1) 第1回理事会
  - 2) 第114回USCAP, Baltimore, MD, 3/23-3/28
  - 3) 第2回理事会
  - 4) 日本病理学会総会でのCompanion Meeting
  - 5) 第9回ふぁんだめんたる病理診断講習会  
（開催予定）
  - 6) The 14th Asia Pacific International Academy  
of Pathology Congress, Bangkok, Thailand,  
11/5-11/7
  - 7) 第3回理事会
  - 8) 第64回総会
  - 9) 第64回病理診断学教育セミナー
  - 10) 第17回日韓合同スライドカンファレンス：  
2025年12月5日 - 6日 北九州
  - 11) 2026年Fukuoka IAP Congressへの準備
5. Christopher Fletcher先生の訃報について  
Fletcher先生の追悼式の模様を国際病理アカ  
デミー日本支部のHPで閲覧できるようにする  
ことが提案され，承認された。

#### 報告事項

1. 庶務報告（2024年9月30日現在）…会員数  
1,007名，会費納入者761名（納入率80%）
2. 学術，教育事業  
・第8回ふぁんだめんたる病理診断講習会…

参加申込開始日を会員と非会員で分け，会員  
の方が早めに申し込めるように設定した。外  
科病理診断講習会はWeb開催，病理解剖診断  
講習会は，受講者が指定サイトから資料をダ  
ウンロード，解答はemail対応

- ・第8回日台合同スライドカンファレンス…  
2024年4月20日（土）～21日（日）京都大  
学大学院医学研究科・医学部 芝蘭会館 稲盛  
ホールで開催した。
  - ・第64回病理学教育セミナー…病理診断講習  
会（現地およびライブ配信によるハイブリッ  
ド開催）：2024年11月9日（土）9：00～  
14：00 東京医科大学病院 臨床講堂（西  
新宿キャンパス）で開催した。スライドセミ  
ナー（オンデマンド配信）：視聴期間：2024  
年11月10日（日）～11月24日（日）
3. 広報活動…News BulletinをHPに掲載し，配  
信はNEWSLETTERにて会員に周知した。また，  
IAP日本支部の公式Xアカウントを通じて，適  
宜広報活動を行った。
  4. 研究の奨励，研究・教育・学会活動業績の  
表彰  
2024年JDIAP病理診断学術奨励賞…岩村隆二先  
生（産業医科大学医学部第1病理学），近藤篤  
史先生（東京大学大学院医学系研究科人体病理  
学・病理診断学分野），玉城智子先生（琉球大  
学病院病理診断科）
  5. COI委員会報告…審議の結果，いずれも  
JDIAPの活動遂行にあたって重大なCOI状態に  
なく，COIについては問題ないという委員会の  
結論となった。
  6. その他…IAP Centralの新しいキャビネット  
の紹介があった。

## 第64回総会

IAP日本支部ホームページにて総会出欠回答お  
よび委任状登録をしていただいた。

期間：2024年10月21日（月）12：00～  
10月28日（月）17：00

日時：2024年11月9日（土）12：00～12：30  
東京医科大学病院 臨床講堂

総会出欠回答者276名，そのうち総会出席予定  
者27名

第1号議案 会員関係・学会報告および委員会  
報告の件…承認された。

第2号議案 会則の改正（案）承認の件…承認

された。

- 第3号議案 2023年決算書および会計監査の件…承認された。
- 第4号議案 2025年予算（案）承認の件…承認された。
- 第5号議案 2025年理事役員改選の件…承認された。
- 第6号議案 2025年事業計画（案）承認の件…承認された。

## 理事選挙結果

2024年任期満了となる湊 宏理事、柳井広之理事の後任について理事選挙を行いました。選挙の結果、孝橋賢一（大阪公立大学大学院医学研究科診断病理・病理病態学）、大橋瑠子（新潟大学大学院医歯学総合研究科分子・診断病理学分野）の2名が選出されました。新理事の任期は2025年1月～2027年12月です。

## 事務局よりお知らせ

- ・2025年（令和7年）の会費請求書は12月中旬ごろを予定しております。
  - －名誉会員、シニア会員の方は会費免除のため請求はありません。
  - －専門医資格を取得されたジュニア会員は、2025年より一般会員へ移行していただきます。お手元に届く会費請求書をお確かめのうえご納入ください。

IAP日本支部学会事務局 担当：平尾  
住所：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5  
アカデミーセンター  
TEL：03-6824-9374／FAX：03-5227-8631  
Email：jdiap-post@as.bunken.co.jp

## 大塚茉莉さん、長い間JDIAPのために有難うございました

東京事務局 松原 修

2013年がん研の石川先生が常任幹事（2013～2015）の時、高野有紀さんから大塚（当時大谷）さんにJDIAPの事務局の仕事を引き継いで貰いました。小田先生が常任幹事（2016～2018）になられた時、福岡事務局（魚返有里さん）と東京事務局の2つの事務局体制が始まりました。それ

以来、都築先生（2019～2021）の名古屋事務局（鈴木友子さん）、原田先生（2022～2024）の金沢事務局（玉野裕子さん）と一緒に、また彼女たちのよき相談相手として、今まで東京事務局を、JDIAP事務局の中心としても、担って頂きました。

会員の入退会、会費の徴収、会計管理、IAP本部へのcapitation tax、Modern PathologyとLaboratory Investigationのsubscriptionの集計、お金の徴収、外国送金、News Bulletin、NEWSLETTERの発行、理事会、総会や理事指名委員会などの日程調整、議題、議事、議事録の準備、病理診断学術奨励賞の募集から賞状などの準備などなど。以前は理事選挙も葉書投票だったので、準備も集計も大変な手仕事でした。教育セミナー、ふぁんだめんたる病理診断講習会の準備、運営も今と違って、まったくの手仕事で大変でした。2022年から多くの事務局業務（会員管理、通信関係、お金関係、Homepageなど）、教育事業（教育セミナー、ふぁんだめんたる関係）などWeb開催を含めて業者さんへお願いするようになり、事務局の業務も昔とは大幅に変わりました。業者さんへお願いすることと、常任幹事の事務局と業務分担をはっきりさせることが大切ではと思います。甲府、沖縄、金沢、広島など地方開催の教育セミナー、総会の時も大塚さんは地方にも出かけてくれて大変苦労をかけた。彼女は川女（埼玉県立川越女子高、明治39年に設立）出身で、100年以上の歴史、自主・自立の精神を重んじる有名校です。立教大学で英米文学を勉強され、英検、TOEICでの高得点を取られ、翻訳の副業もされていました。外国との交渉事、また来訪者の接待などで大変活躍をして頂きました。

事務局の多くの仕事を一緒にやってきてどれだけ大塚さんに助けられたか、感謝しています。中でも印象深いのは福岡Congress誘致を目指しての準備でした。最初は2016年ドイツCologneで、2回目は2018年JordanのDead SeaでのInternational



東京医大、第3回理事会での大塚さんと松原

Council Meetingに向けてのことでした。大変な準備を用意しても2回とも上手く行きませんでした。3回目はUKのGlasgowでの開催でしたがCovid流行のためWeb開催となり、誘致の動画だけでの運動でした。ヨーロッパ勢の意地悪にめげずに、3度目の正直、誘致が決まり大喜びしました。この誘致のための書類、動画作成などに短期間で大活躍をしてくださいました。

誰よりもJDIAP事務局の仕事を理解してくれている大塚さんが、2人目の子供さんの出産を迎えられるのを期に辞められるのは大きな打撃であり、大変残念に思います。今までのご活躍に大変感謝、本当に有難うございました。どうかお元気で、子育てにも頑張ってお過ごし下さることを祈っています。

## Upcoming Meetings

### 第114回USCAP Annual Meeting

日時：2025年3月22日（土）～27日（木）  
場所：Boston Convention and Exhibition Center, Boston, MA  
URL：<https://2025am.uscap.org>

### 第114回日本病理学会総会 コンパニオンミーティング

日時：2025年4月  
場所：仙台国際センター

### 第9回ふぁんだめんたる病理診断講習会

日時：2025年6月開催予定

### 第14回 Asia-Pacific International Academy of Pathology Congress

日時：2025年11月5日（水）～7日（金）  
場所：Centara Grand at Central Plaza Ladprao, Bangkok, Thailand  
URL：<https://www.iapthailand.com/meeting>

### IAP日本支部総会および教育セミナー

日時：2025年11月15日（土）  
場所：名古屋市

### 第17回日韓合同スライドカンファレンス

日時：2025年12月5日（金）～6日（土）

場所：北九州国際会議場（北九州市）  
URL：<https://iap17th.com>

### 第36回IAP Congress 2026

日時：2026年10月8日（木）～13日（火）  
場所：福岡国際会議場  
大会長：小田義直（九州大学形態機能病理学）  
副大会長：清川貴子（慈恵医科大学病理学）  
URL：[https://iapjapan.org/meetings/pdf/poster\\_2026congress.pdf](https://iapjapan.org/meetings/pdf/poster_2026congress.pdf)

## JDIAP 賛助会員

賛助会員としてご支援いただいている下記の企業・団体様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。なお、賛助会員の年会費は50,000円であり、IAP日本支部の発行物などをご紹介させていただいています。私共の活動に賛同し、協力していただける賛助会員をさらに募集していますので、会員の皆様からのご紹介やご勧誘をどうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人シーピーエル  
株式会社キューリンパーセル  
株式会社組織科学研究所  
株式会社東京セントラルパソロジーラボラトリー  
株式会社日本臨床社  
株式会社フィリップス ジャパン  
株式会社臨床病態医学研究所  
アストラゼネカ株式会社  
アジレント・テクノロジー株式会社  
サクラファインテックジャパン株式会社  
平野純薬株式会社  
フィンガルリンク株式会社  
富士製薬工業株式会社  
ホロジックジャパン株式会社  
メドメイン株式会社  
ライカマイクロシステムズ株式会社

## 編集後記

早いもので今号の発行をもって2024年のNews Bulletin最終号となります。思い返せば今年は政治や国際社会での大きな変化がありました。それらに関する隠れた陰謀論やマスメディアの偏重した報道に人々の厳しい目が向けられるようになり、正しい情報を得るための自主的行動が我々に必要なことが改めて示されたように思います。そ

れらは医学を含む科学の分野にとっては一見関係のない問題の様にも見えますが、実はコロナワクチンや米麹サプリメントに代表されるような企業と行政が絡んだ闇も存在すると以前より指摘されており、今後の展開がどうなるのか気になるところです。我々病理医も、科学者・研究者の一人として真実を常に追求する態度は必要でしょう。日々過ちを是正しつつ、過去の教訓を生かすことにより、さらに良い社会となるよう祈念したいと思います。

さて、今年末をもって現広報委員会の役目が終了し、来年1月からは新たなメンバーを加えてスタートする予定です。そして、この間広報委員を務めていただいた湊先生と柳井先生はご卒業となります。これまでNews Bulletinの編集業務を含む広報活動にご貢献いただきどうもありがとうございました。また、読者及び関係者の皆様には本年も大変お世話になりました。それでは良い年をお迎えください。（久岡正典）



**IAP2026**  
The XXXVI International Congress of  
the International Academy of Pathology (IAP)  
in conjunction with  
The 72nd Autumn Annual Meeting of  
the Japanese Society of Pathology

**Vision for the Future**

- Date** October 8-13, 2026
- Venue** Fukuoka International Congress Center  
Fukuoka Kokusai Center
- President** Yoshinao Oda, M.D., Ph.D.  
Kyushu University
- Vice President** Takako Kiyokawa, M.D., Ph.D.  
The Jikei University

For inquiry  
IAP2026 Congress Secretariat  
c/o Congress Inc.  
E-mail: iap2026@congre.co.jp



THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGY

THE 17TH  
JAPAN-KOREA JOINT  
SLIDE CONFERENCE

2025 12.5<sup>FRI</sup> - 6<sup>SAT</sup>

**VENUE** KITAKYUSHU INTERNATIONAL  
CONFERENCE CENTER  
KITAKYUSHU, JAPAN  
URL: <https://iap17th.com>

広報委員会 久岡正典  
森谷卓也  
近藤哲夫  
湊 宏  
柳井広之  
渡邊麗子